



With Kids

海外に住む子ども達の心の健康をサポートする臨床心理士の会

●●● Newsletter 27号 2022年 10月1日 ●●●

先日、日本心理臨床学会(オンライン)で With Kids として 10 回目の自主シンポジウムを行いました。コロナ禍に急速に変化したこととして、オンライン上の学びの場が増えたことがあります。海外からも参加することができ、その恩恵を感じています。今回のシンポジウムでは With Kids16 年の歩みや立ち位置を多様な視点から考えることができました。時代や社会のシステムが変化する中で、アンテナをはりニーズに敏感でありながらも、自分たちの活動をしっかり省察して、これからも活動に取り組んでいきたいと思えます。(MA)

「子育て」支援をご一緒に！

井上孝代 (ゆいグローバルネット所属)

のっけから私事で恐縮ながら、中学生の孫と LINE するような祖母の立場になって、改めて得心していることがあります。子どもの“育ち”についてです。託児制度も十分ではなかった現役の頃、私にとって「育児と仕事の両立」は悩みの種で、ある時敬愛する方に相談したことがあります。彼女は明治生まれで4人のお子様を育てながら英語教師としてのキャリアを積んでいる方でした。

「子育てに苦労していて…」という私のつぶやきに、彼女は優しい笑顔でこう言ったのです。「子育て」？子どもは「育てる」ものではなく、「育つ」もの。だから「子育て」ではなく、「子育て」なのよ」と。それを聞いて、思わず「ガーン」。当時、心理学を専攻した私は、子どもの発達段階に応じて親が「育てる」ことこそ肝要と信じていました。それを、子どもは「育てる」のではなく、「育つ」ものだと一刀両断にされ、ガックリしてしまったのです。

でも価値観や社会システムが変化していくなか、子どもは「育てる」というよりは、「育つ」存在なのだと認識した上での支援の意義を深く思い至るようになりました。まずは、「援助モデル」から「支援モデル」へという枠組み

の変革です。つまり、「子育てに悩む母親」をいかに専門的に助けるかという「援助モデル」の考え方から、「育児の悩み」という問題を当事者(家族)が解決していけるように専門家・ボランティア・関係者が連携・協働してエンパワメントする「支援モデル」の考え方への変革が大事なのだと。

子どもの「支援モデル」の要はあくまで子どもであり、どのお子さんも等しく「育つ権利」が保障されるべきだと考えます。「育つ権利」とは、「教育を受け、休んだり遊んだりできること。考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができることなど」です。今は、まさに「困難な時代」。国の内外を問わず、子どもがその子らしく「育つ」ことができる環境の協働創成を目指して、これからは志を同じくする皆様と「子育て」支援をご一緒にしていければと切に願うものです。

(ゆいグローバルネット共同代表、JAMSNET 日本・理事、明治学院大学名誉教授)



『海外で子どもの発達に不安を感じたら』再考：内部研修を振り返る

With Kids には、お子さんの発達に不安を感じている海外在住の親御さんから、滞在国では日本語での相談や療育を受けられない、というご心配やご不安の声が多く寄せられてきました。国内外の日本語での相談機関に関する情報提供や、一時帰国時などの専門機関の利用の

仕方についてご紹介するのは私たちの役割の一つです。一方、臨床心理士として、発達に偏りや凹凸があるお子さんにとっても「ご家族や身近な人との日々のやり取り」が成長の大きな糧となることも常々お伝えしています。お子さんと一緒に体を使って遊んだり、お子さんの好きな

遊びに家族や先生が交わることで、お子さんの情緒、言葉、そして人とかかわる力が育まれると指摘されています。また、先日行われた With Kids の内部研修では、言葉の遅れがみられるお子さんの「誰かに伝えたい」「コミュニケーションを取りたい」という気持ちが、日常生活の中でも育まれていくこと、その大切さを再確認いたしました。これらの内容は、With Kids が発信した以下のニュースレターに特集として組まれています。是非、今一度ご覧ください。



→No.21.2019 年6月号

→No.17.2017 年1月号

子育てに関する心配事で頭がいっぱいになると、目の前のお子さんの持っている力や、お子さんの強みに気づく余裕が失われがちです。With Kids メンバーはお子さんの心や発達に関する専門的な知見とともに、親御さんがほっとできるような視点を提供できるよう、研修を積んでまいりたいと思います。(TA)

～日本心理臨床学会第41回大会にて自主シンポジウム開催～

9月2日から行われました日本心理臨床学会の自主シンポジウムに With Kids も「海外日本人学校等への相談活動 10-ボランティア活動への思いを語る」と題して10名が参加しました。

今回は私たちメンバーがそれぞれどのような思いを持ちながら活動を行っているのか、事前にアンケートを行い、その結果から見てきたことを、「入会動機と継続動機」、「メール相談のメリットと限界」、「ボランティア活動の枠組み」、「ボランティア活動とそれ以外の活動とのバランス」、といった側面から発表しました。

私たちが行っている相談活動を改めて振り返り、「できていること・できていないこと」「活動を継続していく上で必要なこと」「今後さらに取り組めること・気を付けたいこと」などについて明らかにできたように思います。また、井上孝代先生には指定討論者として活動の意義を再評価・再確認することの大切さと、新しい視点を授けていただきました。(NM)



【海外から子ども自身も相談できる窓口】

★With Kids のメール相談は、子ども達も利用できます。

★外務省 海外安全ホームページ:年齢問わず、海外から利用できる窓口が紹介されています。

例)チャイルドライン支援センター…海外からもオンラインチャットによる相談ができます。対応日時は[こちら](#)。



活動報告

2022年2月～ Online による World MTG(全6回)

7月 関係機関情報交換会「第7回 たなばた会」Online 開催

5団体12名、With Kids より4名参加

9月 日本心理臨床学会 自主シンポジウム開催 テーマ:「ボランティア活動への思いを語る」

10月 NL(No.27)発行

—With Kids は海外に住む子ども達の心の健康をサポートする活動を行っています—

メール相談を受け付けています。ホームページ上の相談フォームからお申し込みください。

- 相談は無料です
- 匿名での相談が可能です
- 一つのご相談につき3往復までお受けします
- ご相談前に必ず、相談規約をご確認ください

